

令和4年度一般会計当初予算説明資料

2 款 総務費

2 項 企画費

3 目 交通対策費

地域交通政策課（内線：7641）

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新)鳥取型MaaSによる地域交通サービス化推進事業	18,600	0	18,600	7,050			11,550	

トータルコスト 35,161千円（前年度 0千円）〔正職員：2.1人〕

主な業務内容 MaaSコンソーシアム運営 MaaS実証実験 MaaS構築に向けた基盤整備 公共交通利用促進

工程表の政策内容 中山間地域等で地域のニーズに即した多様な交通サービスの展開やMaaSの手法等による分かりやすく使いやすいサービスの提供など、生活交通を再構築する取組を進め、公共交通の維持・確保と、公共交通ネットワークを形成して、過度に自家用車に頼らなくても、いつまでも安心して住み続けられるまちづくりを目指します。

事業内容の説明

【「地方創生推進交付金」充当事業】

1 事業の目的、概要

- 新型コロナウイルスがもたらした生活スタイル・働き方の変化や超高齢化社会の到来への抜本的対策として、交通を統合して一体的なサービスとして提供するMaaS（※）及び、交通と交通以外のあらゆる産業が結びつくことで生み出される移動関連サービスを鳥取の地域特性を踏まえた鳥取型MaaSとして推進する。
- これにより、地域住民への自家用車以外の移動の選択肢が生まれ、公共交通の収支率の改善はもとより、免許返納後の高齢者がおでかけし易い環境づくり等の超高齢化社会への対応や渋滞緩和、脱炭素、若者の車離れへの対応（若者定住）等様々な諸課題の解決やまちの周遊性向上による地域活性化に繋げる事を目指す。

※Mobility as a Serviceの略で、複数の交通手段を統合し、1つの移動サービスとして検索から予約、支払いまで可能にし、交通の効率化を目指したサービス。

2 主な事業内容

（単位：千円）

細事業名	内容	予算額
(1) MaaS推進組織の立ち上げ	MaaSに関係する事業者が参画し、MaaSの最新情報等についての共有・議論を行いながら事業連携のアイデアを創出する官民連携組織として、MaaS協議会を立ち上げる。	1,000
(2) MaaS商品開発実証実験	JR、3セク鉄道、バス、タクシー等の各交通モードを一体的なサービスとして提供するものや、さらに交通と交通以外の産業が連携して一体的なサービスとして提供するMaaS商品開発の実証実験をMaaS協議会に対して補助する。（例：JR、3セク鉄道、バスなどを共通で乗車できる共通パス等）	5,500
(3) MaaS構築に向けた基盤整備	ア 交通DX検討会の開催 データに基づく交通運営や費用対効果の高い機器整備について協議を行うため、地域交通専門家、交通事業者、行政等で組織する検討会を開催する。 イ 交通運営のデジタルシフト データ活用のメリット等について理解を深めるとともに、バス情報の標準化・オープンデータ化を行い交通事業者主体で多くの検索サイトへ対応するなどしてMaaSへの円滑なデータ提供を目指す。 ウ キャッシュレス化 県内交通機関の円滑な支払環境の構築のため、QRコード等の費用対効果の高い決済手段の実証実験をMaaS協議会に対して補助する。	9,100
(4) 公共交通利用促進事業	公共交通利用促進県民運動事業 JRをはじめとした公共交通の効果的な利用促進を県民運動として推進する。（公共交通利用促進宣言する企業・団体の取組を支援）	3,000

3 事業目標・取組状況・改善点

○事業目標

関係者が連携し公共交通の変革を図り、過度に自家用車に頼らなくても安心して暮らせるまちづくりを目指す。

○取組状況等

- 地域公共交通計画（旧地域公共交通網形成計画）を策定し、各圏域ごとで課題解決にあたっているが、事業目標を達成するため、現計画を見直し、抜本的な路線再編の検討に着手している。
- MaaSについてのセミナーを開催し、関係者の理解を深めるとともに、鳥取の特性を踏まえた鳥取型MaaSについて議論を行っている。さらに西部圏域におけるMaaSの実証実験（1日バス電子乗車券）への支援も実施。
- 引き続き、各圏域における抜本的な路線再編に取り組むとともに、MaaSの成功例を創出し、全県展開を図っていく。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

2款 総務費
2項 企画費
3目 交通対策費

地域交通政策課 (内線：7641)
(単位：千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
地域交通体系鳥取モデル構築事業	債務負担行為 220,222 275,153	債務負担行為 201,818 260,618	債務負担行為 18,404 14,535		2,900		債務負担行為 220,222 272,253	
トータルコスト	284,616千円 (前年度 270,123千円) [正職員：1.2人]							
主な業務内容	補助事業の執行 研究会開催							
工程表の政策内容	地域の実情・ニーズに応じた生活交通体系の確保							

事業内容の説明

【「地方創生推進交付金」充当事業】

1 事業の目的、概要

令和元年度、県内、特に中山間地域における交通課題への対応として「新たな地域交通体系構築のための研究会」を立ち上げ、従来のバス中心の交通体系からタクシーや共助交通を組み合わせた交通体系に転換を図っており、県内では様々な交通体系再編の動きが見られているが、引き続き、さらなる効率的・効果的な地域交通体系構築に係る市町村の取組を支援する。

2 主な事業内容

(1) 新たな地域交通体系構築支援補助金 246,222千円
補助対象者：市町村、補助率1/2、補助上限額70,000千円(市町村バス運行経費は上限50,000千円)

区分	補助メニュー
① タクシー助成支援	ア 小規模高齢化集落等に居住する75歳以上の高齢者、障がい者等 イ バス路線縮減に伴い新設、拡充するもの ウ 相乗り促進のため上乗せするもの
② 共助交通への支援	ア NPO等による交通空白地有償運送に係る運行経費(人件費、燃料費等)等 イ 住民ドライバー活用のための研修費、保険料等 (国1/2) ウ 共助交通組織の運行管理業務をサポートする組織の支援
③ 市町村のデマンドバスや多角化等への支援	ア 市町村のデマンドバスや乗合タクシー等の運行に係る運行経費(人件費、燃料費等)等 イ 市町村バスの多角化等 (ア) 貨客混載の実施に係る設備費等 (国1/2) (イ) 運行者の異業種参入に係る資格取得費等 (国1/2) (ウ) 自動車学校、介護施設等の送迎バス空席利用に係る調査費等 (国1/2)
④ 新たな仕組みづくり	ア 革新的統合移動サービスモデル事業 ※補助上限の上乗せ(5,000千円) イ その他県が特に認める事業

(2) 車両購入費補助 28,631千円

補助内容	補助対象者	補助率	補助上限額
① 市町村が生活交通路線を運行するための車両購入費	市町村	1/3	定員11人以上 5,000千円/台 定員11人未満 1,000千円/台
② NPO等が交通空白地有償運送を行うための車両購入費		1/2	1,000千円/台

(3) 新たな地域交通体系構築のための研究会 (3回) 300千円
・複合組織化などの地域交通の効率化に係るセミナー (講師を招聘して実施)
・全国の先進優良事例の研究及び市町村へのフィードバック

3 事業目標・取組状況・改善点

○事業目標

市町村の地域交通体系を持続可能にしていく。

○取組状況・改善点

・令和2年度は、11月に県内市町村、交通事業者及び関係機関を集めた勉強会を開催し、過疎地型MaaS(当県では「革新的統合移動サービス」)の他県の先進事例や県内市町村の再編事例について勉強を行うとともに、既存の交通系ITシステムのメリット・デメリットの整理を行い市町村へフィードバックした。
・令和3年度は、持続可能な交通サービス供給組織を検討するため、交通とその他の業務を複合的に運営することで相乗効果の発揮を目指す「地域商社」をテーマとして、主に市町村の交通担当者、中山間地域対策担当者、中山間地域の交通事業者等を対象としたセミナーを11月に開催した。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

2款 総務費
2項 企画費
3目 交通対策費

地域交通政策課（内線：7641）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
乗って守って未来へつなぐ公共交通推進事業	30,801	32,062	△1,261	2,450			28,351	
トータルコスト	43,108千円（前年度 47,568千円）〔正職員：1.2人、会計年度任用職員：1人〕							
主な業務内容	公共交通の利便性向上、地域公共交通計画の推進、公共交通の担い手確保、運輸事業振興助成補助金							
工程表の政策内容	地域の実情・ニーズに応じた生活交通体系の確保							

事業内容の説明 【「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」充当事業】
【「地方創生推進交付金」充当事業】

1 事業の目的、概要

地域公共交通の維持確保に向け、市町村や交通事業者と連携し、公共交通機関の利用促進、利便性向上、ドライバー確保対策・接遇向上対策の実施に加えて、誰もが安心して利用できるタクシーの購入等の支援を行う。

2 主な事業内容

（単位：千円）

細事業名	内容	予算額
公共交通の利便性向上	・バス経路や時刻が検索できるバスネット、バスロケーションシステムの運用委託 ・空港連絡バス、第3セクター鉄道のWi-Fi環境整備委託	10,683
地域公共交通計画の推進	東・中・西部地域公共交通計画に基づく事業評価検証、交通マップの作成、利便増進計画の検討等実施経費（各地域公共交通活性化協議会への負担金）	4,400
公共交通（バス・タクシー）の担い手確保	タクシーの生産性向上に係る事業、女性・若手ドライバー確保に係る事業、ドライバー担い手確保セミナー・運転体験会のイベント開催等（県ハイヤータクシー協会への委託）	1,300
運輸事業振興助成補助金	バス運行に係る安全確保、環境整備、利用促進を図るための各種事業実施経費（鳥取県バス協会への補助金） <安全確保・事故防止対策> ・事故防止のための広報（ポスター作成等）、大型二種免許取得支援経費、感染防止対策等 <環境整備> ・バスターミナル、バス停留所等の整備経費等 <利用促進・利便性向上> ・共通バスパスの作成、公共交通利用促進キャンペーン経費等	7,799
ユニバーサルドライバー実践研修	障がい者への接遇等に重点をおいた交通事業者向け研修開催経費（鳥取県ハイヤータクシー協会への委託）	150
【新規】誰もが安心して利用できるタクシー導入	タクシー事業者が現在のUDタクシーの後継としてUD車両等を導入する際の購入費補助 補助率：1/2（補助上限：150千円/台）	1,800
標準事務費		4,669
合計		30,801

3 事業目標・取組状況・改善点

○事業目標

公共交通の利用促進による交通手段の維持・確保

○これまでの取組状況・改善点

東中西部で公共交通網形成計画（現地域公共交通計画）を策定し、路線見直し、公共交通期間の利便性向上、利用促進等に取り組んでいる。社会の変化を踏まえ、地域公共交通計画の見直しを図り、抜本的な路線再編や利便性向上を進めていく。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

2款 総務費
2項 企画費
6目 文化財保護費

文化財課（内線：7937）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
日本刀と鬼伝説を活用した魅力発信事業	6,916	6,281	635				6,916	
トータルコスト	9,282千円（前年度 8,657千円）〔正職員：0.3人〕							
主な業務内容	名刀古伯耆物フォーラム、印賀鋼・刀剣類の調査研究、スタンプラリーの実施、ツアー造成等							
工程表の政策内容	県民が、郷土とつとりの歴史や文化を誇りに思い、文化財を大切にする機運の醸成							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

刀剣女子など、コアな刀剣・歴史のファン層が生まれる一方で、人気アニメを通じて、全国で刀や鬼にまつわるスポットを巡る家族連れや幅広い年齢層も発生していることから、本県としても文化財の発信や観光周遊への取り組みを図ることとし、本県の有する文化財や観光素材を活用したフォーラムや県内周遊イベント、受け地造成を進める。

2 主な事業内容

（単位：千円）

	事業名	内容	予算額
1	因伯名刀フォーラム	【コアな刀剣ファン層向け】 刀剣専門家等による日本刀の魅力を語るフォーラムの実施	1,339
2	調査研究	印賀鋼、古伯耆物等刀剣類の分析及び調査を行う。	1,077
3	鬼や刀ゆかりのスポット周遊企画商品の造成、受け地整備、情報発信等	【家族連れなど、刀や鬼に関心を持ち始めた層向け】 県内の鬼や刀にまつわるスポットを巡る企画商品を造成し（受け地整備も含む）、情報発信を行うとともに、ツアー実施へつなげる。（刀剣収蔵施設や日南のたたらなど日本刀や伯耆町の鬼関連に関連するスポットなど）	4,500
合計			6,916

3 事業目標・取組状況・改善点

○事業目標

県内における刀剣・たたらに関する周知を広めるとともに、その基礎となる調査等を進め情報収集しながら現況を確認し、保存と活用につなげる。

○取組状況

- ・刀剣・たたらに関する展示を実施し、多くの集客があった。
- ・社寺が所蔵する資料を調査し、刀剣類の鑑定をするとともに、保存状況との確認をしている。
- ・たたら関連資料の理化学分析を実施し、材質や出来具合、制作技法等について検討するなど、県内におけるたたら生産の特質について調査を進めている。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

2 款 総務費
2 項 企画費
6 目 文化財保護費

文化財課（内線：7525）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
「とっとりの誇り」文化遺産活用推進事業	3,675	3,241	434				3,675	
トータルコスト	7,618千円（前年度 7,202千円） [正職員：0.5人]							
主な業務内容	県文化財保存活用大綱のアクションプラン作成、活用計画の検討及び市町村文化財地域計画作成の支援、体験事業の開催と支援							
工程表の政策内容	県民が、郷土とっとりの歴史や文化を誇りに思い、文化財を大切にす機運の醸成							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県の文化財保存活用大綱（以下、県大綱という）をベースとし、本県の優れた文化財を教育資源や観光資源として保存・活用するため、大綱のアクションプランの作成、文化財を活用しやすくするプランニング、地域学習や地域振興活動への支援を行う。

2 主な事業内容

(1) 文化遺産保存活用の推進

(単位：千円)

事業名	内 容	予算額
1 文化財保存活用地域計画策定支援事業	県大綱に基づくアクションプランの作成を行う。また、各市町村が作成する文化財保存活用地域計画作成について、人的・技術的な支援を行う。	70
2 とっとり文化財プロモーション大作戦（広域文化財活用計画策定）	教育、観光等の分野で文化財を「使うこと」について、専門家や文化財保護審議会文化遺産活性部会等の意見を聞きながら、鳥取の文化財を地域振興、教育、観光等、様々な分野で活用し、広く県民に知ってもらい、地域学習に役立てる、産業の新たなアイデアの一助となる、鳥取の誇りの醸成につなげる、などを目標とした活用計画を検討・提案していく。 また、プランに沿った解説看板設置を行う（3か所程度）。	1,741
3 文化遺産を活かした地域振興活動への支援	地域の文化遺産を活用して地域振興を図る活動へ支援する。	250
合 計		2,061

(2) 未来を担う子どもたちへの文化財学習

(単位：千円)

事業名	内 容	予算額
1 本物に触れる～ふるさとの文化財を学ぶ知楽塾	児童生徒が、身近な地域の歴史遺産（遺跡、建造物など）や民俗（暮らしの道具、まつり、伝統芸能など）を学び、地域の文化的な豊かさを実感することで、郷土への愛着と誇りを醸成するふるさと教育の推進に寄与する。 ○事業内容 文化財を対象とした学習活動に係る経費（謝金・旅費、借上げ料、消耗品費）を支援 ○事業例 ・地域の文化財（史跡・伝統芸能・手工芸など）の調べ学習や体験授業 ・地域の文化財に詳しい講師による授業 ・市町村及び県の文化財担当職員による出前講座・出前古代体験	500
2 「ふるさと未来創造工房」の開催	・無形文化財保持者など文化財に関わる各分野第一人者を講師として、子どもを対象とした体験講座「本物に触れる！～伝統工芸作家による子どものための製作体験～」の実施。 ・人間国宝の前田昭博氏による子ども陶芸体験講座など	1,114
合 計		1,614

3 事業目標・取組状況・改善点

○事業目標

県文化財保存活用大綱に基づくアクションプランの作成や活用計画の検討を通じて、文化財の教育・観光等分野への活用を図り、地域の誇りの醸成を行う。令和4年度以降も継続して複数市町村に跨る広域的なテーマを複数設定し取り組んでいくとともに、並行して市町村が実施する文化財保存活用地域計画の作成を支援する予定。

○取組状況

- ・市町村に対する保存活用地域計画の作成について支援を実施し、これまでに北栄町が国の認定を受けた。
- ・地域学習や地域振興活動の支援として、知楽塾、ふるさと未来創造工房を実施した。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

2款 総務費

2項 企画費

6目 文化財保護費

とっとり弥生の王国推進課（電話：0857-85-5011）

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
「とっとり弥生の王国」プロモーション推進事業	26,455	11,081	15,374	1,659			24,796	
トータルコスト	34,341千円（前年度 19,002千円）〔正職員：1人〕							
主な業務内容	とっとり弥生の王国プロモート事業、とっとり弥生の王国フェスタ事業 とっとり弥生の王国ツーリズム事業、青谷かみじち史跡公園プレ活用事業の実施							
工程表の政策内容	-							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

- （1）県内外からの鳥取県への集客をはかるための取り組みとして、妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡における最新の調査研究成果などを活かし、全国に「とっとり弥生の王国」の魅力や情報を広く発信する。
- （2）令和5年11月に鳥取市青谷町にオープンを予定している青谷かみじち史跡公園及び展示ガイダンス施設に関する情報を県内外に広くPRし、オープンに向けて気運を醸成していく。
- （3）妻木晩田遺跡と青谷上寺地遺跡を核とした地域を1パッケージの観光資源として磨き上げる。

2 主な事業内容

細事業名	主な内容	予算額（千円）
1 とっとり弥生の王国プロモート事業 （「青谷弥生人」を活用した波状の情報発信）	（1）「青谷弥生人」女性復顔像制作 「青谷弥生人」女性復顔像を制作。男性復顔像と共に情報発信 （2）「青谷弥生人」頭蓋骨レプリカ制作 復顔像の頭蓋骨のレプリカを制作し、情報発信に活用 （3）「青谷弥生人」そっくりさん大集合 入賞者を「とっとり弥生の王国」に招待。グランプリを決定 （4）「青谷弥生人」イラストデザイン制作 「青谷弥生人」をキャラクター化し、PRに活用 （5）「青谷弥生人」ミュージアムキャラバン 「青谷弥生人」や出土品等の県外での移動展示 等	8,630
2 とっとり弥生の王国フェスタ事業 （楽しむための集客イベント等）	（1）とっとり弥生の王国フェスタ 青谷上寺地遺跡とむきぼんだ史跡公園の二会場で開催 （2）とっとり弥生の王国シンポジウム 「弥生時代の人の祈り」をテーマに開催（オンライン配信併用） 等	10,745
3 とっとり弥生の王国ツーリズム事業 （旅行商品化の促進）	（1）とっとり弥生の王国周遊御金印ツアー 御金印キャンペーンや周遊を促すためのツアーイベントを実施 （2）とっとり弥生の王国ツーリズム促進 県観光連盟と連携し、トライアルツアーやワークショップを開催 （3）とっとり弥生の王国観光PR動画制作 「ツーリズム促進」と連動してその魅力をPRする動画を製作 等	5,345
4 青谷かみじち史跡公園プレ活用事業 （開園気運の醸成）	史跡公園を楽しむリーダー養成ワークショップ 史跡公園を活用した地域活動のリーダーとなる人材の発掘、養成 等	518
標準事務費		1,217
合計		26,455

3 事業目標・取組状況・改善点

「とっとり弥生の王国」をPRすることを目標に、観光のプロと連携した旅行商品化の推進、弥生人骨やそのDNA分析の調査研究成果と「青谷弥生人」の復顔像を活用したイベントや情報発信、AR等の最新技術を利用した動画制作を行うなど、より社会の実態に則した効果的な情報発信に取り組んでいる。

令和4年度一般会計当初予算説明資料

2款 総務費

2項 企画費

6目 文化財保護費

とっとり弥生の王国推進課（内線：7932）

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
（新）とっとり日本遺産魅力発信事業	6,671	0	6,671				6,671	
トータルコスト	14,557千円（前年度 0千円）〔正職員：1人〕							
主な業務内容	契約事務 関連団体調整 ネットワーク会議、フォーラムスタッフ 印刷物原稿作成、校正 パネル巡回展作業							
工程表の政策内容	—							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県内で認定されている4地域の日本遺産について、県内外に魅力を発信するとともに、各日本遺産間での情報の共有、誘客のための効果的な連携を図ることを目的とする。

2 主な事業内容

	細事業名	主な内容	予算額（千円）
1	とっとり日本遺産連携促進事業	○「とっとり日本遺産ネットワーク会議」開催 県内の日本遺産所在自治体、推進協議会及び観光団体等との連携を目的とした会議を立ち上げる（年2回開催）。	76
2	とっとり日本遺産周知促進事業	○「とっとり日本遺産フォーラム」開催 「とっとり日本遺産ネットワーク会議」立ち上げ記念として広く県民に県内日本遺産を紹介するフォーラムを開催する。 ○「とっとり日本遺産パネル巡回展」開催 県内日本遺産について周知を図るため、日本遺産所在市町において日本遺産のストーリー及び構成文化財を紹介するパネル巡回展を開催する。	5,567
3	とっとり日本遺産周遊促進事業	○「とっとり日本遺産ガイドブック」作成、配布 県内日本遺産の周遊を図るため、日本遺産のストーリー及び構成文化財を周遊モデルコースとともに紹介するガイドブックを作成する。 ○とっとり日本遺産共通ポスター、チラシ作成、配布 県内日本遺産の魅力が一目でわかるチラシ、ポスターを作成し、県内観光案内所及び道の駅等に配架する。	1,028
合 計			6,671

※三朝町の日本遺産については、3年後の審査において、他の認定候補地域等との相対評価により認定 継続が判断されることとなった。3年後の審査で勝ち残るため、県と町合同で部局横断的なプロジェクトチームを発足し、三朝町の日本遺産の活用や魅力向上を進めていく。
（プロジェクトチームの予算は、緑豊かな自然課の「日本遺産『三徳山・三朝温泉』磨き上げ事業」で措置）

3 参考：県内日本遺産の概要

『六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～』（三朝町）

『地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市』（大山町、伯耆町、江府町、米子市）

『荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落』（鳥取市ほか）

『日本海の風が生んだ絶景と秘境―幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」』

（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、兵庫県香美町、新温泉町）

令和4年度一般会計当初予算説明資料

2款 総務費
2項 企画費
6目 文化財保護費

とっとり弥生の王国推進課（電話：0857-85-5011）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
史跡青谷上寺地遺跡整備事業	〔債務負担行為〕 202,137 1,270,016	〔債務負担行為〕 904,346 719,233	〔債務負担行為〕 △702,209 550,783		〔債務負担行為〕 181,000 <596,400> 852,000	<受託事業収入> 42,800	〔債務負担行為〕 21,137 108,421	県費負担 704,821
トータルコスト	1,293,674千円（前年度 742,996千円）〔正職員：3人〕							
主な業務内容	土木関係工事 ガイダンス施設基本・実施設計（建築・展示） 補助金事務、部会運営事務、委託業務調整事務など 補助金事務総括、整備関連事業総括							
工程表の政策内容	史跡青谷上寺地遺跡の整備推進							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

保存状態の良い多種多様な道具類、生活廃棄物、人骨、朝鮮半島や中国に由来する品々が出土することで知られる全国屈指の弥生時代遺跡「青谷上寺地遺跡」を適切に保存し、有効に利活用するために必要な整備を実施する。令和5年秋のガイダンス展示施設等の一部オープン、令和11年度のグランドオープンに向け、令和2年度には土木工事の一部、令和3年度には展示ガイダンス施設建築工事に着手したところである。

2 整備活用の基本方針

- 弥生時代の環境や人骨の出土状況再現、優れた出土品や最新成果の展示、当時の生活・技術を体感
- むきばんだ史跡公園との連携、弥生時代の歴史や文化を満喫、地域振興と歴史遺産観光の促進

3 事業の年次計画・事業費、令和4年度の事業内容

(1) 年次計画

段階的な工事・公開を実施し、令和5年秋にプレオープン、令和11年度にグランドオープン予定

(2) 想定概算事業費

約27億円

(3) 予算額

- ・令和4年度：1,270,016千円
- ・令和5年度（債務負担行為額）：202,137千円

(4) 令和4年度の内容

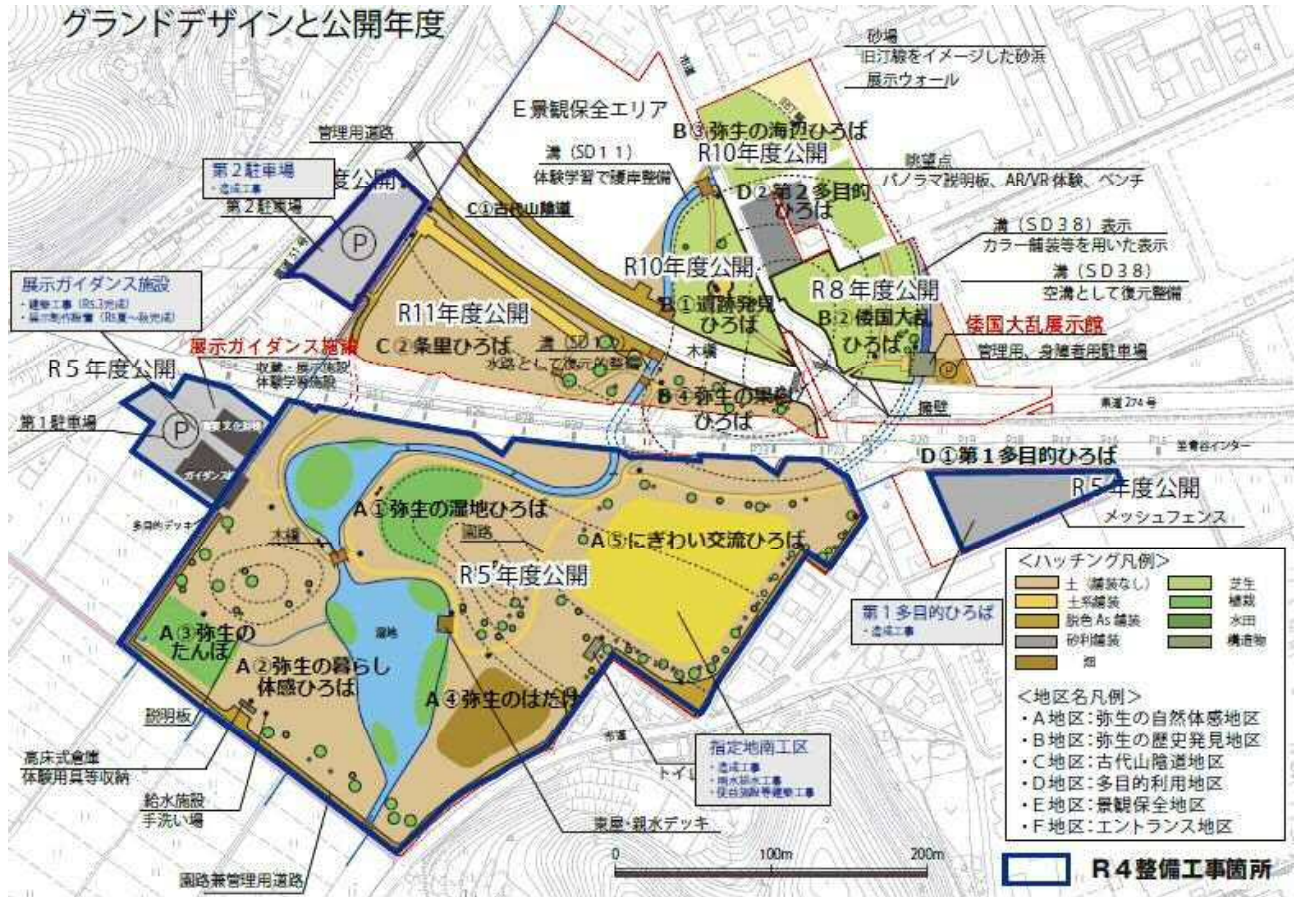
○エントランス地区（展示ガイダンス施設）

項目	内容	金額（千円）
工事請負費	建築工事	927,853
委託料	建築工事監理	20,939
	展示製作設置（R4支出分）	78,681
	収蔵庫収蔵棚（R4支出分）	7,947
手数料	完了検査手数料	143
合計		1,035,563

○弥生の自然体感地区（指定地南工区）、第1多目的ひろば、エントランス地区（第2駐車場）

整備箇所等	内容	金額（千円）
工事費	弥生の自然景観体感地区指定地南工区	178,376
	第1多目的ひろば	18,247
	エントランス地区第2駐車場	28,486
小計		225,109
委託費	—	5,665
事務費等		3,679
合計		234,453

4 グランドデザイン、令和4年度整備箇所



5 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

- ・国史跡青谷上寺地遺跡の保存、活用、情報発信を推進するため、整備を行う。

<取組状況>

- ・平成28年度から30年度まで整備基本計画（詳細化）の策定、史跡内の一部について整備基本設計を実施。
- ・令和元年度は、エントランス地区整備のため土地の公有化を実施。
- ・令和2年度から、土木工事の実施設計、一部仮設道の工事を実施。
- ・令和3年度から整備工事（土木工事）、および展示ガイダンス施設等の建築工事に着手。

<現時点での達成度>

- ・令和5年度の公開を計画しているガイダンス展示施設など史跡南側の整備について、土木工事、建築工事、展示制作に係る実施設計が終了し、順次工事に着手した。

<これまでの取組に対する評価>

- ・整備基本計画（詳細化）の策定で、青谷上寺地遺跡の整備、活用を推進する方針を決定することができた。
- ・上記計画に基づき、基本・実施設計を終了させ、令和3年度には本格的な整備工事を開始することができた。
- ・今後は、引き続き、整備工事を進め、順次公開することで史跡公園の活用を行う。

(注) 起債欄の〈 〉書きは交付税措置額を除いた額である。

県費負担額は、起債欄の〈 〉書きの金額に一般財源の金額を加算した額である。